

病棟実習Ⅰ・Ⅱ（黒潮体験実習）

病棟実習Ⅰ	M-02-07-T
病棟実習Ⅱ	M-03-09-T

オーガナイザー

教育研究開発センター	教授	村田	顕也
教育研究開発センター	准教授	谷本	貴志
教育研究開発センター	講師	佐々木	洋子
地域医療支援センター	教授	上野	雅巳
地域医療支援センター	講師	蒸野	寿紀

I 授業の目的

- ① 医学部附属病院や県内外の地域医療人材養成拠点病院などの医療現場を体験を通して、コメディカルの役割、チーム医療について理解を深める。
- ② 医療の専門職としての役割と責任を学び、医師となる自覚、モラル・人間性を身につける。

II 到達目標

1. 医学部附属病院・地域医療人材養成拠点病院医師の外来・病棟業務が説明できる。
2. 医学部附属病院・地域医療人材養成拠点病院コメディカルスタッフの業務内容が説明できる。
3. チーム医療の意義が説明できる。
4. 医療チームの一員として参加できる。
5. 保健、医療、福祉と介護チーム連携における医師の役割を説明できる。
6. 患者と家族の精神的・社会的苦痛に十分配慮できる。
7. 患者のプライバシーに配慮できる。
8. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し適切な取り扱いができる。

III 対象学年 病棟実習Ⅰ：2年生
病棟実習Ⅱ：3年生

IV 実施期間

2年生 令和5年10月10日（火）～10月13日（金）
（オリエンテーション：令和5年10月10日（火）1限）
3年生 令和6年2月26日（月）～2月29日（木）
（オリエンテーション：令和6年2月26日（月）1限）

V 実習詳細

1. 集合場所

医学部各診療科の医局前（研究棟または実習棟）
地域医療人材養成拠点病院の医局前
※上記集合場所と異なる場合は別途通知する。

2. 実習方法

指導医の指示に従い、外来や病棟診療を見学および体験する

- ① 数名ずつのグループに分かれ、診療科で実習する。
- ② 外来あるいは病棟において、指導医と行動を共にし、医療の実際を経験する。
- ③ 実習中は指導者の指示に従い、決して単独行動をしてはならない。

3. 附属病院での実習当日のスケジュール

- 1日目 登校後 検温、更衣
名札の受け取り
9:30 集合場所へ集合
(時間厳守、グループ全員で揃って訪ねること)
※名札は2日目も使用するので大切に保管すること
- 2日目 登校後 検温、更衣
9:30 集合場所へ集合
(時間厳守、グループ全員で揃って訪ねること)
実習終了後 名札を返却

地域医療人材養成拠点病院でのスケジュールは別途定める。

4. 服 装

- ① 白衣(汚れがなくアイロンのかかったもの)を着用し白衣の前ボタンは必ず留めること。
白衣の下はワイシャツ、ネクタイや華美でないブラウス等が望ましい。
※柄物のTシャツやスクラブは禁止。
※ジーンズ、レザーパンツ、ミニスカートは禁止。
- ② 不織布のマスクを各自で用意し、着用すること。
- ③ 名札(胸ポケットにとめること)
※学生課より配付。実習終了後に返却すること。
- ④ 靴(足先が覆われ、体液がしみこまず、清潔で活動的、かつ音のしないもの)
- ⑤ その他
頭、髪、爪などで患者さんに不潔感、不安感を与えないように注意する。
※極端な茶髪など頭髪の異常な脱色・着色は禁止。髪の色は、黒に近い色で、他人が見て自然な色に。
髪の中の長い女性の場合は、必ず後ろで束ねること。
※爪は短く切り、マニキュア等は除去しておくこと。
※イヤリング、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリ類は外しておくこと。
※実習を行うのに不適切な服装とオリエンテーションや病棟で判断された者は、病棟実習を許可しない。

5. 所持品

筆記具、ノート等

(※携帯電話等の電子機器類を持参したり使用したりしないこと。)

6. 使用更衣室

各自の更衣室を使用する。

集合時間に間に合うように着替えをすませておくこと。

地域医療人材養成拠点病院は別に定める

VI 評価の方法

実習態度(指導医による評価)50%、病棟実習日誌(レポート)(50%)の内容により評価する。なお、提出されたレポートについては、実習先の科に送付する。病棟実習の評価(アンケート)は、指導担当責任者にも依頼する。
無断欠席者、実習態度の不真面目な者、レポート未提出者及びレポートの内容が不備な者等は単位を認めない。

病棟(外来)体験日誌(レポート)

- ① 病棟実習日誌として、実習内容についての行動の記録・感想を各自で記載して、その内容をレポート用紙にまとめる。

② 提出締切日

- ・ 2年生：別に定める
- ・ 3年生：別に定める

各学年とも学生課担当宛てにメールで提出すること。提出締切日は厳守。

「病棟訪問実習」オリエンテーション（予定）

(1) 日時

- ・ 2年生：令和5年10月10日（火） 1限
- ・ 3年生：令和6年2月26日（月） 1限

(2) 場所

講義室2 又は 3（別途通知）

(3) 内容

教育研究開発センター長より留意事項等の説明
オリエンテーション（グループ分け、実習先 等）

VI 病棟訪問実習を受けるにあたって

(1) 実習生としての心構え

- ① 和歌山県立医科大学の学生であるという誇りを持つ。
- ② 身だしなみに留意（マニキュア、長い爪、茶髪、ピアス、指輪等は装着しない）し、相手に不快感や不安感をあたえないようにする。
- ③ 関係者には礼儀正しく、かつ節度ある態度で接する。
- ④ 人との出会いは挨拶から。言葉づかいに気をつける。
- ④ 決められた時間を守る。
- ⑤ 守秘義務を守る。

(2) 何を目標とするか

- ① 早期に医療の現場を体験し、専門職としての医師のプロフェッショナルリズムを身に着ける。
- ② 患者さんを中心としたチーム医療の状況、多職種連携の重要性を理解する。
- ③ 医療現場におけるコミュニケーションやの重要性を理解する。
- ③ 病院の組織や機能を理解する。

(3) 行動するにあたって

- ① 指導教員の指示に従う。
- ② わからないことは質問し、患者の生命に危険が及ばないように、よく理解して行動する。
- ④ 与えられた仕事は、責任を持って行う。その結果の報告は速やかに行う。
- ⑤ 診療体験、見学等には積極的に参加する。
- ⑥ 病棟備品等は大切に取り扱い、私物化しない。もし、破損事故があれば、直ちに報告する。

(4) その他留意事項

- ① 遅刻や欠席の場合は速やかに学生課に連絡すること。
- ② 体調管理には特に留意し、健康アプリのデータ送信を徹底すること。
(※大学へ登校したら、実習開始前に体温チェックもおこなうこと。)
- ③ 感染対策として、マスク着用、手洗い、手指消毒を徹底すること。

	1 基盤的資質				2 医師としての基本的資質			3 コミュニケーション能力			4 医学的知識										5 医学の実践											6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献															
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者への思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達、成長、加齢、死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	EBMの利用	生物統計、疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	プレゼンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動							
卒業時コンピテンス																																																			
病棟実習Ⅰ	レベルB	レベルB	レベルE	レベルB	レベルB	レベルB	レベルB	レベルB	レベルB	レベルF	レベルE	レベルE	レベルE	レベルC	レベルE	レベルE	レベルC	レベルE	レベルE	レベルF	レベルF	レベルB	レベルC	レベルC	レベルC	レベルE	レベルC	レベルC	レベルC	レベルC	レベルE	レベルE	レベルC	レベルC	レベルC	レベルC	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルC	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF		
病棟実習Ⅱ	レベルB	レベルB	レベルE	レベルB	レベルA	レベルA	レベルA	レベルA	レベルA	レベルB	レベルF	レベルE	レベルE	レベルC	レベルE	レベルE	レベルC	レベルE	レベルE	レベルF	レベルF	レベルA	レベルC	レベルC	レベルC	レベルE	レベルC	レベルC	レベルC	レベルC	レベルE	レベルE	レベルC	レベルC	レベルC	レベルC	レベルC	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルC	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	